

AWBC・旭川市教育委員会共催
連携公開講座「あさひかわ学」

2月19日(土) PM2時~3時半

「旭川近現代史の一齣」 講師：北海道教育大学旭川校 海老名 尚准教授

概要：昨年、旭川が開村して120年目にあたり、それを記念したさまざまなイベントが行われた。120年という旭川の歴史は、先人たちによるまちづくりの格闘の歴史でもある。先人たちは、旭川をどのようなまちにしたかったのか。本講義では、大正10年前後に時期を絞り、この時期の旭川のまちづくり構想を取り上げてみたい。大正10年前後は区制から市制に転換する、旭川の歴史における大きな画期となる時期だからである。こうした時期に、先人たちは、どのようなまちづくり構想をたて、それをどのように実現していったのか。この時期のまちづくり構想の特徴と、それを実現に導いた原動力が何であったのかを明らかにしてみたい。



※22名参加

- ・内陸の中で旭川が道北の中心地として考えられていたことは先人の考えとして素晴らしいと思いました。
- ・市来区長さんの「人づくり」については、現在に繋がる考えがあると思う。
- ・産業の発達と文化(教育)活動に意欲的市民が多かったことが理解できた。
- ・大正時代(自分の父親が少年時代)の旭川の様子が感じ取れた。

(アンケートから)※

